

令和6年度 後期卒業証書授与式 式辞

校庭の桜のつばみも膨らみはじめ、若葉の芽吹きに春の兆しを感じられる爽やかな今日の佳き日、PTA会長様をはじめ、ご来賓の皆様、ご家族の皆様のご出席を賜り、ここに令和6年度兵庫県立西宮香風高等学校後期卒業証書授与式が挙行できますことは、我々教職員一同の大きな喜びであり、心より感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました160名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。教職員一同、心よりお祝い申し上げます。そして、今日の日を待ち望んでこられたご家族の皆様、本日は誠におめでとうございます。入学以来、お子様を支え、日々たくましく成長していく姿をご覧になられ、喜びもひとしおのことと存じます。また、今日までのご労苦とご慈愛に対しまして、深く敬意を表しますとともに、本校の教育活動に多大なるご支援・ご協力を賜りましたことを、教職員を代表しまして厚くお礼申し上げます。

さて、振り返れば中学生のときに満たされない生活を送り、本校に入学してきた人が何人もいることを承知しています。また、今日の日を迎えるまでには、必ずしも楽しいことばかりではなかったかもしれません。毎日アルバイトを続けながら学業と両立させてきた人、病気とたたかいながら夢の実現に向けて学び続けた人、ご家族の都合により家庭を支えてきた人、慣れない日本の文化の中で友達に支えてもらいながら頑張ってきた人・・・その他、我々の知らない苦労を抱えながら学校生活を送っていた人もいることでしょう。様々な困難を乗り越えて大きな成長を遂げ、今、新しい道を求めて本校を巣立っていくみなさんに対して、深い敬意を表したいと思います。そして、自分の夢に向かって大きく羽ばたいてゆく皆さんに、我々教職員が願うことはただ一つです。卒業後、どうか幸せになって欲しいということです。このことについて、2つお話をさせていただきます。

1つ目の話です。日々の生活の中で幸せを感じて生きていくことができれば、理想の人生と言えるでしょう。しかし、毎日幸せを感じている人はどのくらいいるのでしょうか。実は、日本の幸福度は「世界幸福度ランキング」によると、先進国中最下位の62位とのことです。日本における「幸福学」研究の第一人者である慶応義塾大学の前野隆司（まえの たかし）教授は、幸せは自分で導くことができるものと断言します。この考え方が最近話題となっており、テレビや雑誌などメディアでもよく紹介されています。前野教授は、人間がどのようなときに幸せを感じるのかを明らかにするために、1500人にアンケート調査を行い、コンピュータによる因子分析によって4つの「幸せになるための因子」を導きました。その4つの因子を紹介します。

その1「やってみよう」因子。自分のやりたい小さなチャレンジを積み重ね、失敗や成功を繰り返し、自分の成長を感じることが幸福に繋がる。

その2「ありがとう」因子。多様な人とのつながりを大切にし、そこで感謝の気持ちを持っている人、思いやりがあり親切な人は幸福を感じる。

その3「なんとかなる」因子。いつも前向きで、自分のいいところも悪いところも受け入れる、どんなことも「なんとかなる」と楽観的に捉えることができ、チャレンジする人は幸せを掴む。

最後の因子、その4「ありのままに」因子。他人と比較することなく、自分の好きなことや得意なことをどんどん突き詰めていくことで幸せを感じる。逆に、常に他人と自分を比べて「自分はダメだ」と思い込む人は、どんどん幸福が逃げていく。

この4つの因子がバランスよく満たされれば、人は幸せになれると前野教授は主張します。つまり、まとめると①自分のやりたい小さなチャレンジを積み重ねる、②常に感謝の気持ちを持ち続ける、③「何とかなる」と前向きな気持ちを忘れない、そして④ありのままに自分らしく生きる。この4つを実践することで、幸せになれるということになります。皆さんは香風高校で上述の4つの因子に繋がることを多く学び、そして実践してきました。卒業した後も自分のやりたいことに情熱を燃やし、常に感謝し、いつも前向きに、ありのまま自分らしく人生を歩んでください。そして、必ず幸せになってください。

2つ目の話です。自分の存在そのものが、誰かにとって価値ある存在であるということを忘れないでください。人は誰かに支えられて生きています。しかし、誰かに支えられていること、また自分が誰かを支えていることは、気づかない場合がほとんどです。例えば、皆さんは何気なしに高校生活を過ごしていたかもしれません。しかし、その当たり前の姿が、本校を志望する中学生に大きな希望を与えています。本年度のオープンハイスクールや入試説明会には、延べ約1300人の中学生およびそのご家族が集まりました。参加した中学生のアンケートには、「自分も香風高校に入って頑張りたい」との意見が多数書かれていました。様々な理由により、思うような学校生活を送れていない中学生にとって、皆さんの日々の姿は希望を与え、勇気を与え、そして自分の理想とする姿になっているのではないかと察します。

そして、皆さんを支えてきたご家族の皆様、また我々教職員も皆さんが元気に登校してくれることで、夢を持ち、希望を持ち、頑張ることができ、そして多くのことを学びました。卒業後、苦しいとき、辛いとき、挫折そうになることもあるかもしれません。そんなときは、立ち止まって考えてください。自分の存在そのものが、周りの人に希望と力を与え、人生を豊かにしている、しかしそのことは誰も教えてくれないかもしれません。このことを忘れないでください。

新たなステージへと向かう卒業生の皆さんにとって、これからの社会は予測できない様々な変化が日々起こり続け、激しい変革に戸惑うことも多いかもしれません。しかし、社会は必ずみなさんを必要としています。将来、この課題多き社会を支え、牽引する人財となってくれることを期待しています。そして、皆さんが笑顔で戻ってくる日を心待ちにしています。

最後に、卒業ソングとして名高い、GReeeeNの「遙か」の歌詞の一節を、皆さんへのはなむけの言葉とします。

気づけば
いつも誰かに支えられ ここまで歩いた
だから今度は
自分が誰かを支えられるように

みなさんのご健康とご多幸、そしてこれからのご活躍を心より祈念し、式辞といたします。

令和7年3月1日

兵庫県立西宮香風高等学校長
桑田 圭介